

2022年度 関東学生水球リーグ戦水球 【戦評】

会場：日本体育大学

【2022/6/4】

この試合のプレー集計

1部7-8

成蹊大学

6

3	—	3
2	—	0
1	—	2
0	—	2
PSO		

7

早稲田大学

審判:

山崎 昇
深谷 周平

成蹊大学	31	SH数	36	早稲田大学
	7	速攻数	5	
	11	ST・SB	11	
	7	SH・P誘発アシスト	4	
	53%	GK阻止率	67%	
	11	EX反則数	8	

ST・SB: ボール奪取・SH阻止

【試合の流れ】

今シーズン前日本代表の志水氏をコーチに招いた成蹊大は、形になってきたディフェンスからの⑩篠崎による突破力で1部リーグでも善戦。何としてもここで1勝をあげて、入替戦での優位を勝ち取りたいところ。

1P

開始早々、成蹊大が練習してきたDF網が十分に機能しない隙を早大⑦曳地がトップ位置からストレートシュートを決めて早大が先制。しかし、成蹊大は自陣退水ゾーンを完璧に守ってからの速攻で得意の⑩篠崎の突破で追いつく。しかし、その後、成蹊大DFがやや下がり過ぎたところを早大⑧岡田、⑦曳地に決められ、なかなかペースをつかめずに成蹊3-3早大で第1ピリオド終了。

2P

第2ピリオドは成蹊DFが完璧に機能し、早大の8本のシュートを狙い通りに防ぎ、シュートミスから成蹊⑩篠崎の突破で2点を奪い、成蹊5-3早大で試合の主導権を成蹊が握った形で前半を折り返した。前半は成蹊大ペースというパターンはこのリーグ戦で数多く見られ、攻守の要の⑩篠崎が疲れを見せる後半が勝負の分かれ目という展開が多いだけに、少しでも点差を開けるかどうかのカギを握る試合展開となった。

3P

序盤、成蹊はチャンスを作り出すもののなかなか得点に結びつかない中、⑩篠崎がボールスチールされてから早大⑫中村に退水を奪われ、早大は確実に決めるためのタイムアウトを取って落ち着かせて、最後は②中井が決めて成蹊5-4早大と1点差に詰め寄る。成蹊は要の⑩篠崎ががっちりマークされて攻撃の糸口をつかめずにオーバータイム、そこを早大は一気に攻めて⑦曳地が退水を奪って③岡田が決めて5-5の同点に。こうなると早大ペース。成蹊②松尾に速攻を決められて成蹊6-5早大でピリオドを終えたが、試合の主導権は前半と変わって早大側で最終ピリオドへ。

4P

成蹊は絶好のタイミングでペナルティを得て、⑩篠崎がシュートするも枠外。そこを逆に早大につかれてペナルティ。早大⑫中村が確実に決めて再び同点。しかし、ゲームは早大がやや余裕を見せながら進める状況となった。成蹊側の余裕のなさから、やや中途半端な状況でのシュートが続き、早大にボールを持たせてしまう展開となった。成蹊が攻め手を失ってオーバータイムとなったところを早大がつき、⑩古谷がゴールを決めてとうとう早大がリードを奪い、その後は一進一退が続いて試合終了。

成蹊はゲーム序盤から、早大⑫中村らの得点力ある選手をマークし、トップ・右45°選手を完全に空けるDFで臨んだが、GKとの連携が十分でないまま同じ形で3失点したことが、最終的には響いてしまった形。ベンチ指示ではあったが、成蹊DFはやや戸惑っていたところもあり、選手たちの判断で対処することもあったらどう展開していたか。